

令和3年第1回さくら市議会定例会一般質問順番

令和3年2月24日（水）午前10時～ 6人

質問順番	質問者名
1番	石原孝明議員
2番	櫻井秀美議員
3番	岡村浩雅議員
4番	永井孝叔議員
5番	高瀬一徳議員
6番	福田克之議員

令和3年2月25日（木）午前10時～ 3人

質問順番	質問者名
1番	小堀勇人議員
2番	笹沼昭司議員
3番	加藤朋子議員

1. 新型コロナ禍における農産物の消費減少について

市長が掲げる農産物売上1.2倍はこれまで向上していましたが、コロナ禍により農産物の消費減少が大きく、収益の低下が見込まれる。特に米は毎年8万～10万tが減産されている。令和3年産はさらに大幅の36万tもの減産が示されて、全国の生産量は693万tが目安で過去最低となり、飼料米・輸出米・加工米・麦・大豆や高収益作物への転換が求められている。

国からは、この状況の中ですでに対策が示されているが、市や県としての対策はどのように進めているのかお伺いします。

- ①コロナ禍で本市において減益が見込まれる生産者への対策はあるのか。
- ②国は高収益作物への推進を掲げているが、本市としての取り組みは。
- ③農業者の高齢化と従事者が5年間で2割の減少があり、対策は考えているのか。

答弁を求める者 市長

1. コロナ禍における生活様式の変化にどう対応していくか

①リモートワークに対応できる対策

リモートワーク増加により移住者等の増加も見込める。そこでさくら市としても、空き家対策と人口増のダブル効果が期待できると考えるが。

②人とのふれあい対策

コロナ禍において、人との交流が減少し生活サイクルの悪化が顕著になりつつある現在、さくら市としては地域の交流、医療、食生活など新たに対応していくべきと考えるが。

③観光のあり方対策

コロナ禍において密を避けた観光が必須となりつつある。そこで、さくら市は温泉、ゴルフ場などがあるが目玉がない。個人所有の山林を利用させてもらい、自然と丘陵をうまくマッチングした事業等を企画して、オリジナルな観光を立案してゆくべきと考えるが。

答弁を求める者 市長

1. 市内取水場近隣住民に対する井戸水枯渇への対応策について

2018年3月定例会一般質問でも取り上げたが、草川あおぞら保育園西側第9取水場近隣の住民から、「第9号取水場の取水開始によって自宅の井戸水の出が悪くなった」との申し出を受け、調査をしてきた。先の一般質問では地下水の水位調査を行う旨答弁があったが、

①その後の調査内容、結果について。

②調査結果によっては、住民への井戸掘り直しの費用負担、市水道加入金免除の措置が必要と考えるがその考えはあるか。

答弁を求める者 市長

1. 新型コロナウイルス感染症対策について

本県においては、新型コロナウイルス特別措置法に基づく緊急事態宣言は解除されたが、依然として医療提供体制のひっ迫が続いており厳しい状況にある。こうした中、本市では市民への円滑な新型コロナウイルスワクチン接種に向け準備を進めているが、看護師等の医療従事者の確保や接種を受けた方の容態急変時の救急搬送受け入れ態勢の確保など、課題があると聞く。

そこで、新型コロナウイルスワクチン接種体制の整備状況及び接種スケジュールについて市長に伺う。また、新型コロナウイルスの影響を受け経営が厳しい状況にある市内事業者と医療機関に対し、どのような支援策を講じていくのか併せて市長に伺う。

答弁を求める者 市長

高瀬 一徳 議員

1. 氏家駅東地区まちづくり計画について

- ①住民へのアンケート送付と結果について
- ②さくら市が思い描く駅東地区の未来とは
- ③範囲設定と計画の策定は
- ④道路整備（都市計画道路）の考えは
- ⑤住民参加のまちづくりについて

答弁を求める者 市長

1. 障がいを抱える当事者の近くにいる「きょうだい」の存在について

「きょうだい」とは 障がいを抱える当事者の兄弟姉妹を指します。

最近「ヤングケアラー」としても認知され、支援の対象になっており、家族の介護、ケア、身の回りの世話を担っている 18 歳未満の子どものことです。

こうした子どもたちの家庭では、病気や障がいなどで介護が必要となった家族をサポートする大人がおらず、子どもたちが家族の介護やケアを担わざるを得なくなります。

具体的には、入浴やトイレの介助に加えて、身の回りの世話、それに、買い物、料理、掃除、洗濯などの家事をしています。

「ヤングケアラー」は、教育現場などでは一定数いると認識されていましたが、実態はよくわかっておらず、十分に支援されてきませんでした。

最近では、下野新聞でもヤングケアラーの特集も組まれていますとともに、去年は、市議会議場で講演会も開催されました。

議員だけでなく、職員の皆さんも多数参加いただきました。

障がいに関わる地域包括ケアシステムや児童サポートについて、各課が連携し、一丸となる必要があると思います。

そこで、「きょうだい」のうちヤングケアラーについて、市としての考え方を伺います。

①現在の対応

②関係機関(国、県、民間)との連携

③課題、問題点

④今後の対応

以上、詳細に問う。

答弁を求めるもの 市長・教育長

1. お丸山地区と桜の郷づくりの今後の進め方について

①これまでサウンディング調査を実施し、民間活力の可能性を探るなどしてきたものの、いまだ全体像が示されていないが、具体的にこのエリアの活用をどうしたいのか。その整備手法についての検討は進められているのかについて伺いたい。

②新年度予算において、桜の郷づくり事業は、勝山地内に桜の見本園を整備する費用が計上された。また、早乙女桜並木については、一部伐採も始まるとのアナウンスもあった。一方でお丸山については、桜などへの樹種転換を進めることの説明がされているものの、全体が桜で包まれるようになるには相当の時間を要するとのことである。

そこで、今後の桜の郷づくりの全体像、具体的に市全体でいつごろまでに、どのような状況を目指そうとしているのか。市民にも分かりやすい全体像を示してほしい。

答弁を求めるもの 市長

1. 防災、減災のための荒川浚渫事業について

近年、大規模な自然災害が頻発しており、国においては、大災害の都度、長期間をかけて復旧・復興を図る事後対応の繰り返しを避け、平時から大規模自然災害に対する備えを行う事前防災が重要との考え方から、これまでの災害の教訓を踏まえた上で、国土強靱化の方向性が示されました。

平成30年に国は「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を定めて推進してきましたが、昨年12月には令和3年度から令和7年度までの5年延長を決定し、15兆円の事業費を確保して対策を拡充継続するとしました。そこで一級河川荒川の河川浚渫について伺います。

- (1) 松島橋上流域から連城橋までの間には松島、早乙女矢口、上坪、中坪など河床が高く、洪水流下能力が不足している場所が長年見受けられます。管理している栃木県においてはこれらの状況を踏まえ今後どのように取り組んでいこうとしているのでしょうか、本市の認識をお聞きします。
- (2) 今後の荒川の県の浚渫事業予定については、どうでしょうか、本市の認識をお聞きします。

答弁を求める者 市長

加藤 朋子 議員

1. ひとり親家庭支援拡充について

- ①ひとり親世帯臨時特別交付金において、家計急変を理由に申請をした家庭の把握は、また実数は。
- ②離婚成立前後の相談、支援策は。
- ③養育費確保支援策は。
- ④死別家族へのグリーフケアは。

答弁を求める者 市長